

# 六甲カトリック教会報

2005.11 No.407

## 11月のお知らせ

	教会暦	教会行事
1 火	諸聖人 (祭日)	7 : 00、10 : 00 ミサ
2 水	死者の日	7 : 00、10 : 00 ミサ (10時ミサ後墓参)
4 金	聖カロロ・ボロメオ司教	初金 7 : 00、10 : 00 ミサ
5 土		10 : 00 祈りの道場 (15 : 00ミサ) 池長大司教
6 日	年間第32主日	14 : 00 神戸地区評議会 (バイブルハウス)
9 水	ラテラン教会の献堂	
10 木	聖レオー一世教皇教会博士	
11 金	聖マルチノ (ツール) 司教	
12 土	聖ヨサファト司教殉教者	13 : 00 バザー準備、17 : 00、19 : 00 主日ミサ
13 日	年間第33主日	9 : 00 ミサ (七五三のお祝い) チャリティーバザー (11 : 00ミサはありません)
17 木	聖エリザベト (ハンガリー) 修道女	14 : 00 ベタニアの集い
20 日	王であるキリスト (祭日) 聖書週間 (27日まで)	13 : 30 壮年会黙想会 (ザビエルハウス)
21 月	聖マリアの奉献	14 : 00 三日月会ミサと例会
22 火	聖セシリアおとめ殉教者	
24 木	聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者	
26 土		14 : 30 子供のミサ (ホール)
27 日	待降節第1主日	
28 月		11 : 00 ベビーとママの集い
30 水	聖アンデレ使徒	

## 接点の11月

今年も素晴らしい実りと収穫の季節がやって来ました。皆さまにも、今年実ったもの、人に味わってもらえる収穫はあったでしょうか？1年も終わりに近づき、11月はその年を振り返ってみる良い時期でもあります。

26年前、わたしがベトナムから日本に上陸したのもちょうどこの季節、11月のことでした。福岡の港から長崎の難民収容キャンプに移動するときに見た柿の木が今でも鮮やかに思い出されます。真っ赤に熟した柿の実が葉のない枝にたわわに実っていました。その様子は、楽園の知恵の実をイメージさせるほど強烈な印象を与え、祖国ベトナム脱出のための長くて苦しい時

間を経て、ようやく日本にたどりついたわたしにとって、実りの象徴のようにも思えました。また、思いもよらないわたしの人生の大きな転換期と重なって、季節の変わり目の象徴ともなりました。

その柿の木の根元には枯れ落ちたたくさんの葉がちらばっていました。役目を終えて、地面に落ちた無数の葉をみると、わたしは自分の先祖のことを思い、ひいては自分の知らないところでわたしを助けてくださったであろう多くの方のことを思いました。11月は死者の月です。ベトナムのカトリックの家庭では、11月の毎日、日本のお盆のように先祖にお供えをして祈

りを捧げます。わたしは初土のミサで、特に無縁の靈魂のために感謝の祈りを捧げることになっています。先祖はもちろんのこと、亡くなられた多くの方々の苦労や努力があって、今、自分の命を与っている。自分の知らないところで、自分の知らない人が自分を支えてくれている。今生きている方もすでに亡くなられた方も関係なく、人はみな何らかの形で繋がっています。無縁の人はいないのです。そういった多くの人たちの上にある現在の自分を思うと、死者の月はわたしにとっては一つの実りでもあるのです。

人間関係の粗雑化が進む現在、先祖を思って、自分の存在を考えることは信仰のひとつの生き方です。今私が持つ文化、価値感、信仰心、そういったことを先祖が代々築き残してくれたのだということが、祖国を離れると切に思い出されます。またそれが、現実に戻るための原動力

になり、心の支え、自分が実っていく方向を示す人生の羅針盤にもなります。人生においても同じことがいえるのではないのでしょうか。人にはそれぞれ過去があり、過去がなければその人の歴史も価値もありません。過去にとらわれ過ぎてもいけません、今を生きるために過去を振り返ることは大切です。それをステップにして、前向きに進んで行くべきだと思います。

信仰生活において、実りはこの世にはありません。この世はあくまでも復活の神秘に与るための一時の準備期間です。実りと季節の変わり目でもある11月はわたしにとって、死者と今を生きる自分、自分の過去と将来、そして、この世と父が導いてくださる先にある天国を考える「接点の月」であるともいえます。

高山親神父

---

---

## 各 部 会 だ よ り

### 📖 壮年会

(1) 11月20日は壮年会の黙想会です。午後1時半からザビエルハウスにて、バレンタイン神父様のご指導で開きます。終了後はイグナチオホールで懇親会も行います。多数のご参加をお願いします。

(2) 男の料理教室 11月16日10時から

(3) 壮年会の10月例会が10月2日に開かれました。この日は高山神父様の「主の祈り」という題でのお話を聴きました。「主の祈り」は福音書のマタイにもルカにもあり、根幹的な祈りではあるが、機械的に暗誦できれば良いというものではなく、人それぞれの「主の祈り」がある。各自の立場にふさわしい「わたしの主の祈り」があってよい。祈りの展開といふべきものと言えよう。たとえば、弱い者の「主の祈り」、労働者・野宿者の「主の祈り」というものが実際にある。そのような祈りこそ深く味わうべきであろう、という趣旨のお話でした。

### 📖 婦人会

〈11月行事〉

1日(火) 諸聖人の日 ミサ 10:00

2日(水) 死者の日 ミサ 10:00  
ミサ後墓参(担当：西地区)

4日(金) 初金 ミサ 10:00

13日(日) チャリティーバザー

#### 担 当 地 区

おでん 西5、東1、東2

カレー 東3、東4、中5

炊き込み御飯 西4、中3

のみの市 西1、東5

食品等販売 中1、中2

洗い場 西2、西3

お茶 中4

\* 担当するものによって10(木)からお手伝いが入ります。連絡網が廻りますので、多くの方のご参加をよろしくお願いします。

\* のみの市の物品は9日(水)まで集めさせていただきます。

\* 食券は6日(日)で販売を終了いたします。バザー当日、現金で、お寿司、おにぎりを販売いたします。よろしくご依頼致します。

〈11月掃除当番〉

4日(金) 東1、東2

11日(金) 東3、東4

18日(金) 東5、中1

25日(金) 中2、中3

時間はいずれも9:00からです。

### 👉青年会

- ・チャリティーバザー 11月13日(日)  
綿菓子、ポップコーン、ビンゴを出店予定
- ・定例会 11月27日(日)12:30~14:00  
於：第3会議室  
内容：聖書研究(指導：高山神父)  
※初めての方も是非気軽に参加下さい！！

### 👉三日月会

- 11月21日(月)14:00 例会・ミサ  
15:00 典礼の解説 ビデオ

### 👉社会活動部

- ・社会活動部連絡会は、今月はお休みです。  
12月2日(金)初金ミサと婦人会の例会の後開きます。お間違いの無いようご注意ください。
  - ・今月の炊き出しは、社会活動神戸センターの都合で、六甲教会の当番はお休みとなりました。来月の当番日12月10日(第2土曜日)にはいつもの通り、ご協力宜しくお願い致します。
  - 11月2日(水)11時~(死者の日のミサ後)  
手芸の集い バザーのための小物を作ります。
  - 11月17日(木)14時~ ベタニアの集い  
聖体拝領式と懇親会。後刻、案内状でお知らせ致します。
  - 11月20日(日)  
9時のミサ後~ 手作りコーナー、喫茶コーナー  
イグナチオホールにお立ち寄り下さい。
  - 11月25日(金)14時~ おにぎり作り  
須磨方面、夜回りの為に作ります。
- ~10月度社会活動部連絡会議事録より~  
社会活動部では、12月~2月の間に、障害のある方、高齢の方への接し方(介助の方法等)の勉強会を持ちたいと計画致しております。具体的なことは未定ですが、詳細が決まりましたら、改めて御案内致します。多くの方のご参加をお待ち致しております。学びの場を活用し“気後れする事無く、手を必要としておられる方に声が掛けられれば良いな”と願っております。

~シナピス神戸勉強会のお知らせ~

11月13日(日)15~16時 明石教会  
今回は六甲教会でもお野菜の販売でおなじみの“野の花”が活動内容の発表をされます。興味をお持ちの方は、バザーの日と重なっていますが、帰途回られては如何でしょうか?

~カトリック大阪大司教区シナピス研修会~

11/12(土)10~15時 於:大司教区本部事務局  
大阪大司教区シナピス事務局より研修会の案内が届いています。詳細は掲示板に張り出しておりますので、興味のある方は、お申込み下さい。

~社会活動部より物資寄付の御願い~

釜が崎ふるさとの家、社会活動神戸センター、シナピス神戸より日用雑貨品(歯ブラシ、歯磨き、石鹸、タオル、髭剃り単、単、単乾電池、カイロ etc.)やジャンパー、ズボン、シャツ、靴下など衣類の寄付依頼が来ております。バザーの翌日(11月14日)よりイグナチオホールに箱を用意致しますので、ご協力をお願い致します。

### 👉施設管理部

「教会は皆様の手で美しく」

今年も早、10月半ばを過ぎ、紅葉の季節となりました。園芸部の散水の方、及び外路掃除の皆様には、今年も大変厳しい暑さの中、ご協力頂きました事、厚く厚く御礼申し上げます。お陰様にて花壇も美しく、花木も良く育ち、蠟梅、紅梅、白梅、アーモンド、染井吉野桜、木蓮、アメリカ花水木、藤の花と色々々の花を觀賞する事ができました。

しかし、これからは、落葉する事となり、掃除で大変な季節となります。現在のスタッフだけでは無理な点があります。それは、落葉の真っ盛りとなると、南側の石垣の下にはいっぱい集まり、掃除した後から後から落葉があり、スタッフだけでなく気付いた方が掃除をして頂ければ本当に有難いと思います。教会は皆々様の手で綺麗にしたいものだと思います。ご協力の程お願い致します。神に感謝(中口精二)

### 👉地区会

東灘10, 11, 12地区合同11月3日(木)10時45分集合  
六甲学院にて11時よりミサ 昼食後懇談  
伯母山地区 11月19日(土) 於：六甲学院  
13時30分~ 茶話会  
鶴甲・六甲台。桜ヶ丘3地区合同の地区集会  
11月26日(土)10時45分集合 於：六甲学院  
11時からミサ、昼食をはさんでわかちあい

## 11月号のテーマ：神の愛に新たに応える私たち

これまでに祈りの中で感じたこと、感動したこと、深い慰めや励ましを受けたことなどを味わいながら、すべてにおいて神の愛を見出すようにと黙想していきます。その中で神の愛に対して、私たちは積極的に応えようと決心します。

次の2つのことを注目しておきましょう。

第一に、愛は言葉よりも行いによって表れると考えるべきです。愛は賜物として神から頂き、そして相手に自分自身を捧げることです。

第二に、愛は二人の間の交換にあります。すなわち、愛する人は、もっているものを愛する人に分け与え、一方愛される人も相手に対して同じようにするのです。

神の愛に対する感謝の心を込めて、次の祈りを繰り返して祈りましょう。

『主よ、すべてを取ってお受け入れください。わたしのすべての自由も、記憶も、知性も、意思も。わたしにあるものと持っているもののすべてを。あなたがこれらをわたしにお与えくださったのですから、主よ、あなたにお返し致します。すべてはあなたのものですから、どうぞ、み旨のままにお取り計らいください。ただ主の愛とお恵みをお与えください。そのお恵みだけでわたしには十分なのです。』  
(バンバン神父)

### 📖 図書紹介

『神の発見』

五木寛之 対談者・森一弘  
平凡社

宗教ミステリーとも言うべき「ダ・ヴィンチ・コード」の話題をきっかけに、自称ブッディストと言われる五木寛之氏のエッセイと森一弘カトリック司教との対談と書き下ろしエッセイの本です。

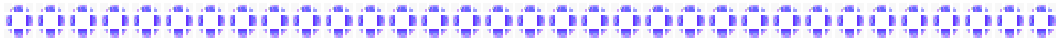
対談の冒頭から、世間を騒がせた「ダ・ヴィンチ・コード」の質問に対し、俗な話になるのかと読み始めましたが、さすが森司教様、ていねいにしかもさりげなく確信をついた答えを出しておられます。教会は正統な教義や信仰に明らかに反するものでない限り、民間の信仰伝承・伝説には目をつぶり、関与しなかったという懐の深さを話されている。五木氏は親鸞の言行を記録した「歎異抄」を読んで、熟読しておられる聖書の中に同じ部分、例えば他力本願、即ち大いなるものに身を委ねるという考え方をみつける話、「神との出会いの謎」「祈りの謎」「日

本人とキリスト教の謎」「神に覆われた人ヨハネ・パウロ二世の話」など興味深い話題が続きます。

お金・地位・権力・健康に依り立った人生の中で、それらの支えを総てはぎ取られた時、人間の本当の慟哭があって、初めて人間の真実にたどりつけ、本当の救いの意味が見えてくる。それが十字架像の中にこめられている話しに共感します。「宗教は結局、地の底に足をおろさないと、どうしようもない」「傷つき、もがきながら、そこから叫び、神を求めていくときが、本当の信仰ではないか」と話される森司教様。

自分の人生を根っこで支えてくれるような福音の確かな受け取り方をして祈り、信仰を育てていく大切さ、また自分の生き方、自分の人生観を確立しながらキリストの心を生きること、人を大切に、人への優しさを失わず、神に目を向けながら現実を生きることを自分に言い聞かせながら、本を読み終わりました。(藤井恵津子)

良い本と出会ったら、皆さんとも分かち合いたいですね。  
「図書紹介」欄では、皆さんからのご寄稿をお待ちしています。  
また、購入希望の本がありましたら、是非、図書室のみどりの  
投稿箱にお入れ下さい。  
図書係



## 10月1日「祈りの道場」 (婦人会・養成部合同プログラム)

### ●祈りの道場に参加して

今回の黙想会は、池長司教様が直々にご指導され、その物静かな語り調子で、聴くひとを黙想の世界へと引き込んでいかれました。

私が最も印象深かったのは、修道生活でのご経験でした。30日もの間沈黙を続けることは大変つらかったけれども、黙想しているうちに「慰め」や「平和」のところが得られたそうです。そして、そのようなこころの状態、例えば、「司祭になる」というような重大な決心をしたならば、それは容易に崩れるものではない、と述べておられました。このようなことから、当日のテーマの「神と人との交流」という言葉が意味を持つてくるのでしょうか。日頃の祈りは、時間も短く、神への一方通行に終わっているように感じます。

久しぶりに参加した黙想会でしたが、普段、喧騒の中で生活している私にとって、一日ゆっくり考え、最後にごミサにもあずかり、すがすがしい気分を味わうことができました。司教様、また、お世話いただいた養成部、婦人会の皆様へ感謝!! です。  
(河野光成)

### ●主の御名を讃美いたします

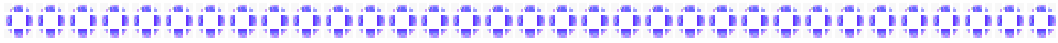
この度は祈りの道場に参加させて頂き本当にありがとうございます。大司教様の豊かなメッセージを通して神様の限りない愛のうちに神様を深く思う霊的に満たされたひと時でした。

私達の総てをご存知で、暖かく包んで導いて下さる主にお委ねして、心静かに御声を聞く黙想の祈りを体験させて頂きました。天上のもの地上のものが一つに結び合わされる祈りを通して、神様と交流できるキリスト者の幸せを改めてかみしめました。

この様な恵みの時を分かち合って下さり心から感謝致します。

(日本キリスト教団宝塚教会 岩本明美)





## エレミヤ書公開講座（10月15日・16日）

### ●神のみこころ

今年も、雨宮神父様には「エレミヤ書」を通じて“聖書の心”“神の思い”を説いて頂き、御親切・御熱心なお話しの時間を忘れて学ばせて頂いた。

- ・人には限界があり、深い“神のみこころ”ははかり難い。だから常に神の思いを探し求め、間違いに気づけば即座に軌道修正をなさい。そしてその後も“神の思い”を探し求め続けなさい。
- ・そのためにも聖書を正しく読みなさい。正しくとは、繰り返し、まんべんなく。謙虚な心で、本文の一言一句を考え、反芻しつつ神の本音を読みほどこいていきなさい。

“神の思い”から離れているのにそれを認めない民。神と人では“思い”や“思いへの道”に、実は天と地ほどの差があることに気づかず、「私は正しい」と思い込んでいる人がどれ程多いことか。紀元前、この種の民が神の怒りを買ひ、預言者を悩ませ、嘆きの因となった。

今の世も同じ、私も少々耳が痛い。エレミヤは不屈の戦士。壮絶な生きざまには感じる人が多い。未熟な私にとって“神のみこころ”はほど遠いが、日々少しづつでも理解を深めていきたい。毎木曜日、オマリー神父様の「エレミヤ講座」は只今18章。これからいよいよ佳境に入る。謙虚な気持ちで“神のみこころを探し求め”信じる心を養ういい機会にさせて頂こうと楽しみにしている。

（鈴木昭夫）



---

### 壮年会遠足報告

10月22日（土）壮年会主催の遠足が行われました。大型バス2台で8時に教会をスタート、10時に徳島教会に到着、バレンタイン神父様の司式でミサが立てられ、徳島教会のみなさんと短い時間でしたが分かち合いをすることが出来ました。当地の重要無形文化財である阿波人形浄瑠璃の舞台を見学したあと、古い民家を移築した趣のあるレストラン「阿波の里」で昼食、午後は「うだつの町並」の脇町を散策しました。参加者60余名は帰りのバスではクイズや歌を歌って和気あいあい。夕方6時半には教会に無事到着。少し冷え込みましたが秋の好日、楽しい一日を過ごしました。

（詫洋一）

「チャリティバザーで協力を」

今年も我が国をはじめ、各国でも大地震・大水害が発生し、生命・家屋・財産までも一瞬にして失われ、本当に気の毒なことです。何とか一日も早く復興して、元の生活に戻ることが出来る様、心から祈っております。

今年もチャリティバザーで包丁研ぎをすることになりました。少しでも被災者の方々のお役に立てればと思っています。私も微力ながら精一杯頑張って包丁研ぎに専念したいと思います。1本でも多く研ぎたいと思います。是非ご協力下さい。  
(中口精二)

教会報 12月号の発行は、12月4日(日)です。

編集会議は11月27日(日)です。

記事原稿は、11月20日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。  
(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6

発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父

編 集 広 報 部